



久留米大学 
KURUME UNIV. SYOUKEI DOSOKAI SOKUHO

商経同窓会速報

発行所
〒839-8502 久留米市御井町1635
久留米大学商経同窓会
広報委員会
TEL 0942-44-2432
FAX 0942-44-3846

久留米大学商経同窓会速報No.37

平成22年7月15日発行

平成22年度代議員会・定期総会を開催



会長挨拶(要旨)

久留米大学商経同窓会

会長 宮原 岩政
(昭39年卒 11回生)

本日は、平成22年度の代議員会・定期総会の開催に際し、皆様方にはご多忙の中をご出席いただき、厚く御礼申し上げます。また、常々ご指導を賜っております薬師寺学長や由井商学部長、並びに江藤経済学部長の先生方にもご臨席を賜り、心より御礼を申し上げます。

商経同窓会は、お陰をもちまして100名弱の代議員を揃えて、このように開催することが出来るところとなりました。今後とも先生方各位には、更なるご指導を賜りますことをお願い申し上げます。

さて、本年は御井学舎に商学部が開設されて60周年を迎えることとなりましたが、今日の久留米大学を西日本有数の大学へと導いていただきました学長先生や学部長先生に心より敬意を表する次第であります。

私達、同窓生は既に25,000名を超えるまでになりました。本年3月、同窓の仲間入りをしました卒業生は700名弱であります。もっとも同窓の裾野を広げていかなければならないと思っています。

私の方針として「支部をそれぞれの地域の一つでも多く」を念願と致しております。平成21年度は八女支部の開設。北九州支部の再開。そして佐賀県では鳥栖三養基支部の開設等々、裾野が一步一步広がっていく感を受けております。

商学部は60周年を迎えましたが、同窓会も56年の歴史を誇るまでになりました。私達は存在感を高め、そして、それを確立していかなければならない時を迎えたのではなからうかと思っています。その一端として、久留米市の市議会や、行政の中心に、我々の同窓が入ることを私は念願しているところであります。

久留米市の市議員42名の中で、久留米大学出身の議員は田中多門議員1人です。少なくとも4～5名の市議員をつくらなければならないと思っています。幸い、本日出席の吉富巧さんは来年4月の久留米市議選に挑戦するとのことであり、また、もう1名、後援会活動をとっておられる方がいるそうあります。私はこの3名の方に、何とでも議席を獲得し、私達の真の声を久留米市や他の地域に伝える役を担って欲しいと強く思う次第であります。

次に同窓会活動について、昨年承認いただきました奨学金制度がありますが、平成21年度の申し込みは皆無でありました。この点、学生の皆さんに対する制度のPRをしていかなければならないと考えております。



総会風景

又、同窓会本部では無駄を省いた活動の推進を行っており、各支部で開催されます支部会への出席も、人数を抑え、現在では私と組織委員長の2名が各支部会へ出席しているのが現状であります。本部との密接な連携を図るため、もっと本部から出て来いということであれば、役員会で検討し対応を図る考えであります。その他、幹事会や委員長会における食事(弁当)の面でも改善を図り、総じて少しでも皆様方に喜んでもらえる同窓会にしていかなければならないと思っています。

何はともあれ、会長として皆様方に満足頂けることはできておりませんが、皆様方や本部役員の方により恙無い1年を終えることができたものと感じております。新しい年度は、私の最後の詰めの年度であります。次の世代により良き同窓会として繋げる努力を致して参りますので、何卒、皆様方のご協力を重ねてお願い申し上げます。私の挨拶とさせていただきます。

久留米大学商経同窓会平成22年度代議員会・定期総会は4月10日（土）午後12時30分より久留米大学御井学舎メディアセンターで開催されました。

総会は出席者85名で開会し、溝口議長により第1号議案 久留米大学商経同窓会会則改正の件（現行）第7条 役員の任期は、3年とし、再任を妨げない。

但し、会長については3選しないものとする。

（改正）第7条 役員の任期は、3年とし、再任を妨げない。

第2号議案 平成21年度事業報告の件

第3号議案 平成21年収支決算報告並びに監査報告承認の件

第4号議案 平成22年度事業計画案承認の件

第5号議案 平成22年度予算案承認の件

上記議案は、いずれも承認可決されました。

平成22年度、代議員会・定期総会では、来賓として薬師寺学長、由井商学部長ならびに江藤経済学部長のご出席を賜り、ご挨拶をいただきましたので、ここにご紹介いたします。

薬師寺学長からは、学長が入学された当時の古き良き時代の大学を回想いただくと共に、学校法人久留米大学がこれまで世に輩出した卒業生は72,000名を超え、さまざまな分野で活躍しているという現実を踏まえたとき、私たちは更なるパワーと存在感を世に示していくことが大事であるということを強調された他、地元根付いた大学として、久留米市

の活性化（街おこし）にも皆様方の支援と協力をお願いしたいとお話をいただきました。

続いて、本年4月より商学部長に就任されました由井商学部長からは、昨年度の商学部入学者数は368名となったが、商学部の一般入試の歩留まりが、これまでに例のない高いパーセンテージであったことをご披露いただくと共に、商学部の志願者数が増加していることは、これまでの60年間、地道に行ってきた活動の成果であり、又、同窓生の方々の支援によるものだとのお言葉をいただきました。

最後に江藤経済学部長から、経済学部の活動は商学部の支援をいただきながら社会とのつながりを深めることができていることに感謝の弁をいただいた他、薬師寺学長が「更に良き大学」を目指して改革に取り組んでおられることに対し、商経同窓会の宮原会長も学長の改革推進に支持をされ、お陰をもって、改革が動き出していることにお礼の言葉をいただきました。

更に、江藤経済学部長は御井キャンパスの本丸にあたる新棟の建設に思いを馳せ、時代の流れと共に歴史と風格を漂わせる質の高い本丸の建設を提唱され、この思いに是非のお力添えを皆様よりいただきたいとお話がありました。

以上が来賓三氏より賜りましたご挨拶の要旨ですが、私たち卒業生として大学発展のため、今後とも惜しみない支援と協力をしていきたいものと考えて次第であります。

商学部創立60周年記念(春季)行事が開催される

久留米大学商経同窓会平成22年度代議員会・定期総会と同日に開催された商学部60周年行事は記念式典や講演会が御井キャンパス内で開催されました。式典では薬師寺道明学長、前川博理事長からそれぞれ商学部の理念や教育研究上の取り組み等の話がありました。

また、講演会では日本製薬団体連合会の竹中登一会長による「くすりをつくる・創薬一人々の健康を願って」と題して特別講演が行われました。製薬ビジネスの最前線をスライドを駆使した講演は大変解り

やすく、興味をひかれる話でした。

式典・講演会終了後は新しい試みとして「ホームカミングデー」が開催され教授・現役学生・同窓生が参加して「語り継ごう商学部—あのころを、いまを、これからを」をテーマとしたシンポジウムが行われそれぞれの立場から、本学商学部に対する熱い思いが語られ、教育や研究が今後も後輩に受け継がれ、ますます進歩・発展していくことを確認しあいました。



創設60周年を機に リフレッシュ・スタート

商学部長 由井 敏 範



久留米大学商学部はこの4月で創設60周年を迎えました。4月10日に行われました創設60周年記念春季行事に際しましては、商経同窓会並びに同窓生の方々には多大なご協力、ご尽力を賜りました。改めて厚く御礼申し上げます。

商学部は人でいえば十干十二支が一巡する還暦にあたる創設60周年を大きな節目と捉え、久留米大学および商学部のこれまでの歩みを検証したうえで、「人のために尽くす」という久留米大学

の建学の精神を確認するとともに、これと「新しい社会をひらくビジネス・リーダーの育成」という商学部教育理念とを繋ぐものとして下記のブランド・タグライン、およびロゴ・マークを定めました。

人の幸せにつづくビジネスを学ぶ
久留米大学商学部



今後はこれらを社会に積極的に発信し、これからも「人の幸せにつづくビジネス」教育・研究に努め、ブランドにふさわしい実績を未来に向かって積み重ねていく所存です。

近況報告

経済学部長 江 藤 彰 彦



昨年、経済学部は創設15周年を迎えました。10月にはそれを記念するシンポジウムと第14回社会経済国際シンポジウム（日本・中国で隔年開催）を並行して開催し、多くの方のご参加を得ました。

開催にあたって、商経同窓会から多大のご支援をいただきましたこと、心からお礼申し上げます。

15年の枠で考えると、あっという間に過ぎ去った15年という印象になります。しかし、大学を取り巻く環境はこの数年で大きく変わりました。

変化をもたらした一つの要因は、卒業時までには学生に一定水準の学力（学士力）をつけさせるための制度改革を求める文科省の政策です。それに対応して、御井学舎でも様々な取り組みが進行中

です。恒常的に改革に取り組むシステムが、いずれの組織にとっても欠かせないことはいうまでもありません。また、現代の若者に、時代と文化がまったく異なる昔のやり方が、通用するわけがありません。大学で組織的教育など受けた記憶がない元学生としては一抹の感慨をいだきつつも、対応に追われる今日この頃です。

これとは別に、大学固有の要因からも、改革に向けての動きが始まりました。理事会は基本構想策定会議を設置し、安定的な財政基盤確立に必要な対策の検討に取り組んでいます。御井学舎でも、将来構想委員会を設置し、教育体制の整備・キャンパス整備などについて検討を始めました。御井キャンパスの「本丸」となる新棟の建設と合わせて、制度面でも、教育環境面でも、よりよい大学となるよう力を尽くしてゆく所存です。

前途は多難です。加えて、バブル崩壊後を超える就職超氷河期の到来で、学生諸君は就職戦線で苦戦を強いられています。今後とも、同窓会の皆様のご支援・ご教示をお願い申し上げる次第です。



平成22年度事業計画



総務委員会……………委員長 土谷 昌 敏

- (1) 同窓子女の母校受験を引き続き支援するための奨学金制度の浸透をはかります。
- (2) 家計急変者の4年生(学部長推薦)に対し、同窓会学納金援助基金制度の浸透をはかります。
- (3) 学生のクラブ活動、ボランティア活動、国際交流に対する支援を行います。
- (4) 同窓会館を利用して、同窓生の交流をはかります。

規則委員会……………委員長 佐藤 和 生

同窓会活動において、現状にそぐわない規約等について検討を行い、実態に即したものにしていきたいと思えます。
また、規程等の改正の要望があれば必要に応じ委員会を開催し、検討を進めて行きたいと思えます。

組織委員会……………委員長 島田 征 児

- (1) 新支部構築については、引き続き努力します。特に、前年度目標にしていた沖縄、関西地区と新たに大分地区に力を注ぎたいと思えます。
- (2) 休眠支部に対しては、前年同様努力します。
- (3) 各支部活性化については、それぞれの支部に合った地域性のある支部に出来るよう支部長等と協力しながら行っています。

名簿委員会……………委員長 中橋 肇

同窓会名簿は個人情報保護法により取りやめておりますが、同窓会名簿の管理・閲覧は同窓会事務局で行っておりますのでお問合せください。また、皆様の住所変更等ございましたら事務局まで必ずお知らせください。最新のデータ収集を行い、会員皆様のお役に立つようにしております。

広報委員会 (HP委員会) ……委員長 上床 一 幸

- (1) 代議員会・定期総会終了後、直ちに7月発行の“速報”に着手して、代議員、本部役員、学内関係者、各支部長宛に発送します。
- (2) 会報に関しては投稿要望や支部の増加に伴い、紙面の増刷の必要に迫られて参りました。費用を含めて委員会で検討して参ります。
- (3) ホームページの掲示板が一部の人に活発に利用されています。もっと広範囲に利用されるよう訴求して参ります。

財務委員会……………委員長 姫野 昭 彦

本年度においても、引き続き各委員の協力を得て会費の徴収増加に努め、特に終身会費(現加入者1,445名)の納入促進については、会長をリーダーとして強力に推進していきたいと思えます。
支出については商学部創設60周年行事の一環としてホームカミングデーが開催されることから、それに向け協力していく方向で計画しております。

平成22、23年度支部会開催予定 (近隣の支部へご参加下さい)

支部名	開催日	場所	支部長
熊 本	平成22年 7月25日(日)	KKRホテル熊本	大倉 長蔵
東 京	平成22年 9月11日(土)	がんこ銀座1丁目店	川村 文彦
長 崎	平成22年10月16日(土)	ホテルニュー長崎	後藤 正
鹿児島	平成22年10月23日(土)	ホテルパレスイン鹿児島	森重 義隆
嘉 飯	平成22年10月23日(土)	ことぶきかいかん	永光 皓司
福 岡	平成22年11月 6日(土)	ANAクラウンプラザホテル	平川 猛展
佐賀県	平成23年 2月12日(土)	グランデはがくれ	中橋 肇
久留米	平成23年 2月19日(土)	ホテルニュープラザ久留米	大木 武彦
福岡県南	平成23年 5月21日(土)	しげちゃん	志岐 弘嘉

会費納入のお願い

終身会費、年会費のいずれかを選択の上、同窓会費の納入をお願いいたします。
終身会費 15,000円(1回限り)
年会費 3,000円(毎年)
振込先 郵便振替口座
01700-7-29407
加入者名 久留米大学商経同窓会

久留米OB会(福岡)



第48回久留米OB会が6月10日、福岡CC(和白コース)で開催されました。前回に引き続き薬師寺学長も参加され、総勢27名(7組)の大盛況ぶりでした。優勝は芹野 誠氏(10回生)で初優勝となりました。おめでとうございます。次回は今秋開催予定です。参加希望者は幹事の神村まで…モバイル080-8760-8290



編集後記

- なぜか巷では川柳ブームだ。たった今忘れたことすら忘れ去る。歳コイタ
- 開票後どこと(党)どこと(党)が手を結ぶ。日和見
- はやぶさ奇跡の帰還は憂鬱な日本社会、日本人に強烈な自信と誇りを与えてくれた。(上床)